

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071600912
法人名	学校法人 久留米ゼミナール
事業所名	グループホーム 御井つつじ苑
所在地	福岡県久留米市御井町2011 (電話) 0942-45-0967

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年6月22日	評価確定日	平成19年8月23日

【情報提供票より】 (平成19年6月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	12年	11月	1日
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人	
職員数	23 人	常勤	21人,	非常勤 10人, 常勤換算 7.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	1 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,480 円	その他の経費(月額)	15,500 円	
敷金	有( ) 円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年6月4日現在)

利用者人数	26 名	男性	4 名	女性	22 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	12 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	63 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	渡辺医院・古賀病院・毛利歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

学生寮を改築した3階建て、3ユニットの事業所である。大学、高校に隣接しており、畑が残る丘陵地の住宅地に位置している。内部は明るくゆったりとした空間が確保され、利用者が家庭的な雰囲気の中で生活している。代表者は「人間対人間」を重視したケアを積極的に実践しており、利用者が家族の一員として、安らぎある暖かい生活が送れるよう、職員は支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題への取り組みとして、地域との交流、行政との関わりや人権教育等の課題に積極的に取り組み、具体的な改善に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義や目的を理解して、ユニット毎に全職員が自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を実施し、利用者の状況、事業所の活動報告、地域高齢者の現状報告等を行い、意見交換を活発に行っている。利用者や家族・地域住民の交流等、そこで意見をサービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	月1回、担当職員が利用者の暮らしぶりを手紙で報告している。また、家族の訪問時に意見や不安を聴くよう努めている。家族会はないが、運営推進会議に家族代表が参加し、そこでの意見を運営に反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。ホーム便りを回覧板で回覧し、食事会や草取り、敬老会に参加している。また、事業所の夏祭りには地域の人にも呼びかけ、参加がある。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	分かりやすく優しい言葉で事業所独自の理念を掲げているが、地域密着型サービスについての視点が含まれていない。	○	全職員で協議等を行い、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、ユニット毎の事務所に提示し、管理者職員は毎朝礼時確認し、理念の実践に向け取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。ホーム便りを回覧板で回覧し、食事会や草取り、敬老会等、各種行事や催し物に参加している。また、事業所の夏祭りには地域の人にも呼びかけ、参加がある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価及び外部評価リストをユニット毎に整備して、全職員が意義を理解している。評価を活かして、地域との交流、市町村との関わりや人権教育等の課題に、具体的な改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会を実施し、利用者の状況、事業所の活動報告、地域高齢者の現状報告等を行い、意見交換を活発に行っている。利用者や家族・地域住民の交流等、そこで意見をサービスの質の向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便りを持参して利用者についての相談する等、日常的に行政との連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護、成年後見制度を活用している利用者の支援をしている。しかし、制度に関して、全職員で研修等を行っていない。	○	制度に関する研修の機会を持ち、利用者や家族への情報提供ができるよう、全職員の制度への理解を深めてほしい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、担当職員が利用者の暮らしぶりを手紙で報告し、また、2ヶ月に1回、ホーム便りを送付している。金銭管理は各利用者の金銭管理台帳を整備し、定期的に送付している。暮らしの中で変化があれば、その都度連絡し、家族訪問時には声かけに努めている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族も参加する運営推進会議や家族の訪問時及び定期的な連絡時に、意見等を聴き取るように努めている。トイレの改修等、運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族、職員の馴染みの関係を重視し、異動は出来る限り最小限にする努めている。やむを得ず変わる場合は、事前に利用者との引継ぎに考慮しながら、ダメージが最小限になるよう配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用には、性別年齢で排除せず、人に対する思いなど人間性を重視し採用している。従事する職員とも本人の要望等を何でも言える、相談できる関係作りを築いている。管理者は人材育成、資格取得を支援している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>関係資料をファイルに保管し、その資料を基に全職員で会議等で話し合い、人権教育に取り組んでいる。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的な内部勉強会では、感染症予防対策、高齢者排便障害などケアに対する学習がされている。また外部研修に参加した人がミーティングで報告し、研修内容をファイルしている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市の介護サービス事業者協議会グループホーム部会に加入している。また、2年ほど前から地域のケアスタッフ交流会に参加している。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用に至るまで、職員が利用者の自宅等へ訪問している。顔馴染みになり、日帰りや宿泊体験をしてもらって、本人の納得の上でサービスの利用を決めている。場の雰囲気に馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活体験の中から、一緒に漬物作りを行い、楽しんでいる。茶碗ふきや洗濯物たみ等を一緒に行い、利用者から労いやいたわりの言葉をかけられる等、お互いに支えあう関係を築いている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から意見を聴いたり、利用者の生活歴の中から意向や希望等の把握に努めている。また、職員は、利用者の表情や言葉、様子などから思いや意向の把握をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃から利用者や家族の関わりの中で、思いや意見を聴き取り、職員間でモニタリングして会議を行い、介護計画をきめ細かく作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しでは6ヶ月を原則としているが、状況により1ヶ月、6ヶ月や1年の見直しもある。	○	介護計画の見直しについては、6ヶ月を基本としながら、状態に応じたモニタリング、カンファレンスを行い、介護計画を見直してほしい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した場合は見舞いをし、家族や医療関係者と連携を図って、早期退院に向けた支援を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、かかりつけ医で受診できるように職員が車で送迎する等、支援している。また、いつでも相談できるように、事業所で協力医療機関も確保している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は、入居時に基本的な対応ができるケアについて説明している。必要に応じて家族、医師、職員との連携を図りながら、繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや個人情報保護法について、ミーティング時等に確認し、勉強会をしている。普段の対応も、トイレのタイミングをみて、さりげなく誘導の声かけを行うなどの配慮をしている。また、職員同士で気になる言動があればフロアー長に相談し、利用者のプライバシー確保に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日のスケジュールは立てているが、その時々本人のペース、気持ちを尊重し、本人の希望にそって支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に配膳や食事、片付けをしているが、職員は持参の弁当を食べている。おやつは利用者と一緒に手作りしている。	○	利用者と職員が同じ物を同じテーブルで一緒に味わいながら、利用者にとって食事が楽しいものとなるように支援してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、大まかに時間帯と回数が決まっているが、利用者の希望やタイミングに合わせて、入浴を支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、食後の片付け、漬物漬け、裁縫、生け花、琴、俳句作り等、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	送迎車により買い物や、季節によるイベントドライブ等外出する事は多いが、日常の散歩や外気浴の支援は十分とは言いがたい。	○	日常的に外出する機会を増やしてほしい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地条件から、事故防止のために全家族の理解のもとに同意書をもって玄関は施錠している。居室の施錠はしていない。	○	利用者の安全を図りながら、日常的に玄関の鍵をかけないケアや工夫をしてほしい。
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルがあり、避難訓練実施記録をファイルしている。消防署の協力を得て、防災訓練を年2回、普通救命講習を年1回実施している。毎朝の申し送り時に防火装置や消火器、避難経路の確認をしている。	○	今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を実施してほしい。また、非常食や備品の準備などを行ってほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量は記録している。水分については、常時確保するよう配慮している。水分制限者には、特に摂取量管理を行っている。カロリーや栄養バランスなどについては、栄養士等から専門的アドバイス、チェックは受けていない。</p>	○	<p>最低年1回は、栄養士等による専門的アドバイスやチェックを受け、利用者の健康管理に努めてほしい。</p>
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が活けた生け花を各所に飾り、廊下にもソファを置き、ゆっくり過ごせるよう家庭的雰囲気づくりに配慮している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、畳み敷きベッドが備えられ、仏壇や整理タンス、テーブル等の馴染みの物が持込まれている。思い思いに飾り物をし、その人らしい居室になっている。</p>		

※  は、重点項目。